



2026年8月27日

各 位

会 社 名 オンコリスバイオフーマ株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 浦田 泰生
(コード番号：4588)
問 合 せ 先 執 行 役 員 秦 耕 平
(TEL.03-5472-1578)

LINE-1 阻害剤センサブジン (OBP-601) の 海外医学誌掲載のお知らせ

神経変性疾患の1つである進行性核上性麻痺 (PSP) を対象とした LINE-1 阻害剤センサブジン (OBP-601/TPN-101) の第 IIa 相臨床試験の結果が、2026 年 8 月に発行された海外医学誌 "Movement Disorders" に掲載されましたのでお知らせします。

当社は、Transposon Therapeutics, Inc へ OBP-601 を導出し、同社は現在 OBP-601 を神経変性疾患領域で開発しています。この試験では、OBP-601 をそれぞれ 100mg、200mg 及び 400mg を 1 日 1 回投与する群とプラセボ投与群で効果を比較しました。合計 42 名の PSP 患者さんが登録され、何れかの群に割り付けられました。

その結果、以下が確認されました。

1. OBP-601 は、PSP 患者において神経変性の主要なバイオマーカーである脳脊髄液中の NfL (ニューロフィラメント軽鎖) *値の上昇を抑制することが確認されました。
2. プラセボを 24 週目まで投与された後に OBP-601 に切り替えて 1 日 400 mg 投与された群では、24 週目から脳脊髄液中の NfL 値が低下を示しました。一方、試験開始から 48 週間継続して OBP-601 を 1 日 400mg 投与された群では、NfL 値の上昇が認められませんでした。

以上の結果から、今後 PSP 患者における OBP-601 の臨床的効果を再検証する意義があると述べられています。

本件による 2026 年 12 月期の決算数値への影響はありません。

*NfL (ニューロフィラメント軽鎖) : NfL は、神経細胞内に存在するタンパク質です。神経変性が起こると NfL が神経細胞外に漏出して、脳脊髄液中の NfL 値が増加します。これまでの研究結果では、PSP 患者の脳脊髄液中 NfL 値が 1 年あたり 9~18%上昇することが報告されています。

以上